

**令和 7 年度千葉県循環器病対策推進協議会でいただいた意見・質問等と
これに対する県の回答**

NO.	意見・質問等	県の回答
1	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合について、令和 5 年度の国民栄養調査によると全国で男性が 14.1%、女性が 9.5%であり、県が提示した数値とかけ離れている。根拠を示して欲しい。 若者はノンアルコールを好む傾向にあり、むしろアルコールを飲まない人が増えているはずなので、この統計が正しいのであれば、高齢者の飲酒が増えていると思われるので、分析して示して欲しい。	「直近」の欄には、令和 6 年度に千葉県の実施した生活習慣に関するアンケート調査において、「飲酒する者と飲酒しない者を合わせた人数のうち、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合」を記載すべきところ、「飲酒する者のうち、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合」を男女ともに記載していました。 そのため、欄外の訂正内容のとおり訂正します。 なお、令和 3 年度と令和 6 年度の調査結果を比較すると、「ほとんど飲まない（飲めない）」「やめた（1 年以上やめている）」を合わせた割合はいずれの年度においても、男性の 20 代・30 代では 4 割を超え、女性は 20 代以上全ての年代で 5 割を超えていました。 また、「毎日（飲む）」は、令和 3 年度は男性では 50 歳以上の年代で 3 割を超え、女性では 40 歳代から 60 歳代で 1 割を超えていたところ、令和 6 年度は 50 歳代の男性は 24.8%に、60 歳代の女性は 8.8%にそれぞれ低下していました。 詳細は欄外調査結果のとおりです。

【訂正内容】

誤

	計画策定時	直近	達成状況	目標
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒して いる者の割合（男性）	R3 年度 13.5%	R6 年度 21.3%	悪化傾向	R11 年度 減少
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒して いる者の割合（女性）	R3 年度 9.4%	R6 年度 30.4%	悪化傾向	R11 年度 減少



正

	計画策定時	直近	達成状況	目標
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒して いる者の割合（男性）	R3 年度 13.5%	R6 年度 13.3%	改善傾向	R11 年度 減少
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒して いる者の割合（女性）	R3 年度 9.4%	R6 年度 10.4%	悪化傾向	R11 年度 減少

【調査結果】

令和3年度生活習慣に関するアンケート調査結果

問 あなたは週に何日位お酒（清酒、焼酎、ビール、洋酒など）を飲みますか。

回答 ア.毎日 イ.週5～6 ウ.週3～4 エ.週1～2 オ.月に1～3

カ.やめた(1年以上やめている) キ.ほとんど飲まない(飲めない) ク.無回答

【男性】

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
20～29 歳	5.2%	3.3%	8.5%	9.8%	18.3%	5.2%	49.0%	0.7%
30～39 歳	9.3%	6.8%	13.5%	14.8%	13.5%	6.3%	35.9%	0.0%
40～49 歳	24.7%	8.0%	8.8%	13.5%	9.8%	3.7%	31.3%	0.3%
50～59 歳	30.4%	12.2%	10.1%	8.4%	9.9%	4.8%	23.8%	0.5%
60～69 歳	35.8%	13.3%	8.5%	9.2%	5.6%	5.2%	21.4%	1.1%
70 歳以上	30.1%	9.5%	7.1%	6.4%	5.3%	11.5%	27.6%	2.5%
(再掲) 75～79 歳	32.8%	10.4%	6.0%	8.2%	1.9%	13.8%	25.0%	1.9%
(再掲) 80 歳以上	23.6%	6.2%	7.7%	5.8%	5.4%	15.8%	31.3%	4.2%

【女性】

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
20～29 歳	1.9%	1.9%	3.8%	9.0%	23.2%	4.7%	55.5%	0.0%
30～39 歳	5.3%	4.2%	5.8%	9.1%	15.8%	7.2%	51.8%	0.8%
40～49 歳	10.2%	4.3%	8.4%	9.3%	11.2%	5.0%	51.2%	0.4%
50～59 歳	11.4%	6.0%	4.6%	8.7%	10.1%	4.3%	54.5%	0.4%
60～69 歳	10.4%	6.3%	5.4%	6.0%	8.8%	3.1%	58.6%	1.5%
70 歳以上	4.3%	1.6%	3.2%	2.3%	5.5%	3.0%	76.0%	4.1%
(再掲) 75～79 歳	5.1%	2.7%	4.8%	2.4%	6.8%	3.4%	68.4%	6.5%
(再掲) 80 歳以上	0.9%	0.6%	1.2%	2.5%	4.7%	2.8%	82.6%	4.7%

令和6年度生活習慣に関するアンケート調査結果

問 あなたは週に何日位お酒（清酒、焼酎、ビール、洋酒など）を飲みますか。

回答 ア.毎日 イ.週5～6 ウ.週3～4 エ.週1～2 オ.月に1～3

カ.やめた(1年以上やめている) キ.ほとんど飲まない(飲めない) ク.無回答

【男性】

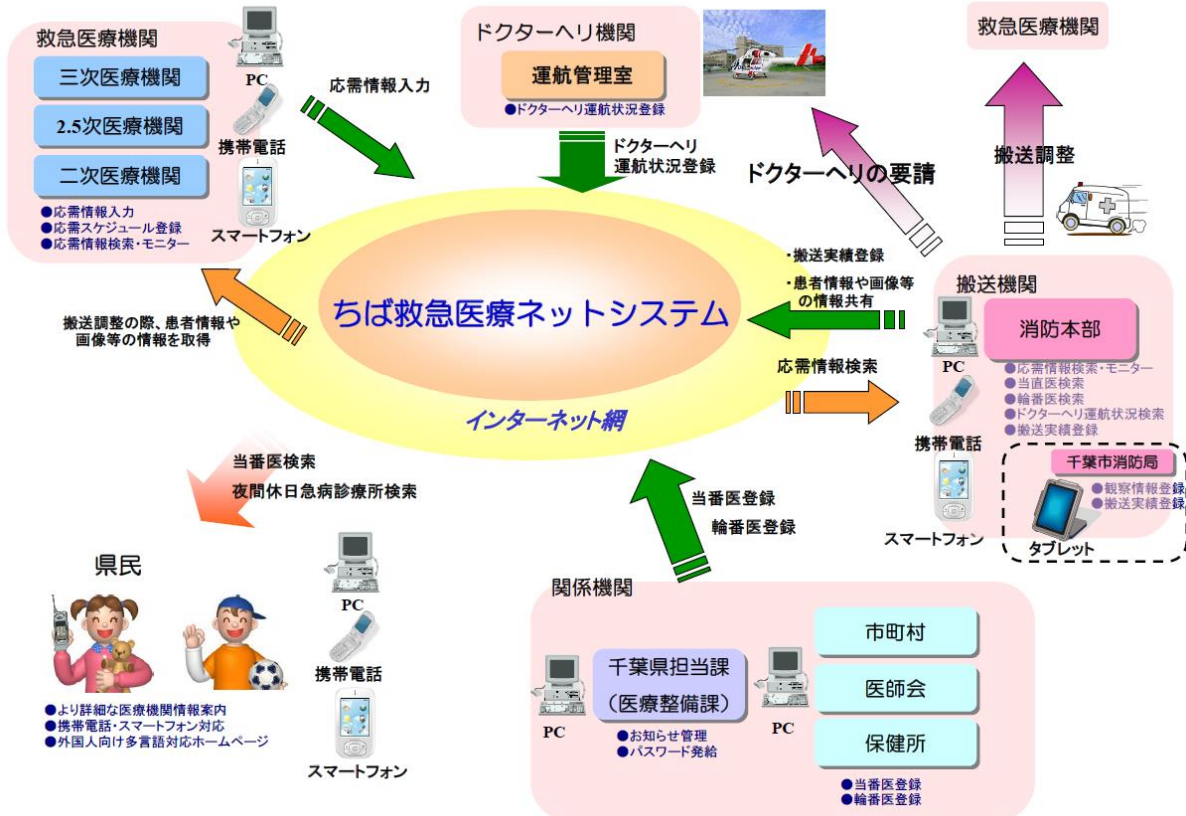
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
20～29 歳	2.7%	2.0%	8.8%	12.2%	25.7%	1.4%	45.9%	1.4%
30～39 歳	7.0%	6.5%	9.0%	16.6%	16.1%	2.5%	42.2%	0.0%
40～49 歳	20.3%	12.2%	11.5%	13.2%	11.8%	1.0%	29.7%	0.3%
50～59 歳	24.8%	9.0%	11.5%	10.3%	14.5%	4.3%	24.8%	1.0%
60～69 歳	31.5%	12.2%	7.4%	9.2%	8.4%	7.0%	23.7%	0.4%
70 歳以上	32.0%	9.0%	6.9%	7.8%	5.9%	9.0%	28.8%	0.6%
(再掲) 75～79 歳	28.3%	11.4%	6.0%	10.5%	6.7%	7.0%	29.2%	1.0%
(再掲) 80 歳以上	31.3%	8.0%	6.1%	4.6%	5.5%	10.4%	33.4%	0.6%

【女性】

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
20～29 歳	0.0%	2.3%	2.8%	12.4%	31.1%	2.3%	48.0%	1.1%
30～39 歳	4.1%	4.1%	5.2%	9.7%	14.6%	9.0%	53.2%	0.0%
40～49 歳	12.4%	5.4%	6.7%	8.8%	12.4%	3.9%	50.1%	0.3%
50～59 歳	11.4%	5.3%	7.1%	8.6%	12.6%	2.4%	52.1%	0.6%
60～69 歳	8.8%	4.8%	6.0%	6.0%	9.8%	3.6%	59.9%	1.0%
70 歳以上	4.9%	3.2%	4.3%	3.9%	6.6%	2.7%	71.0%	3.4%
(再掲) 75～79 歳	4.0%	3.7%	4.9%	4.9%	7.1%	0.9%	71.5%	3.1%
(再掲) 80 歳以上	4.0%	2.0%	1.8%	3.0%	4.8%	4.3%	74.4%	5.8%

NO.	意見・質問等	県の回答
2	救急搬送時間など今回示された指標に対して、県として具体的に実効性ある施策がなされているのかを委員の我々に示すことが非常に重要であり、県としてはどのような施策をされているのか示してほしい。 例えば、システムを使っているのであれば、どういうシステムを使って、どのようなことやっているかを示して、それに実効性があるかを考えることが必要ではないか。 実効性のある政策を進めるために、例えば重点項目を明確にして、来年はここを重点的に行うとかを、我々は議論するべきだと思う。	救急搬送の時間を短縮するためには、受入先の医療機関の充実・強化を図ることが重要と考えており、例えば、三次救急医療体制の整備・確保を図るため、救命救急センターの運営費及び施設設備整備費に対して助成するなど、救急医療を担う医療機関向けの補助制度を設けています。 また、救急隊が迅速かつ的確に受入先の医療機関と交渉できる環境を整備するため、受入先の医療機関の空床情報を救急隊に提供するシステム（ちば救急医療ネット）を運用しています。（欄外概念図絵参照） このほか、救急隊が患者の受入可否を複数の医療機関に一斉に照会できるシステムを、別途、試験的に導入したところですが、運用面での課題を踏まえ、一斉通報（患者情報の共有）システムとして、ちば救急医療ネットへの統合を準備しているところです。 しかしながら、こうした取組を行っても救急搬送時間に改善が見られないことから、委員の先生方からより効果的な取組等を御教授いただけますと幸いです。 なお、協議会における協議方法については、全体的な進捗状況の説明に加え、進捗の思わしくない分野について、現状や県の取組、関係者の取組等を特に深掘りし、改善に向けた具体的な協議を行う等、今後、改善を検討してまいります。

ちば救急医療ネットシステム概念図



3	就労支援のデータについて、将来的にどのように実績を把握するのか。就労支援に関わった実績を汲み上げるシステムがないのではないかな。	評価指標として設定している「脳卒中患者に対する療養・就労両立支援の実施件数」は、国から提供されている医療計画作成支援データブックで把握しており、NDB データにおける療養・就労両立支援指導料の算定件数から算出されています。
4	日本脳卒中学会の令和7年次報告があったので、「保健医療及び福祉に係るサービスの提供（脳卒中）」の初期目標に係る評価指標のうち、最新の状況が把握できたものを紹介する。 「SU がある医療機関数」は 41 機関、「血栓回収療法実施可能医療機関数」は 36 機関、「t-PA 血栓溶解療法実施可能医療機関数」は 41 機関である。	